

じゃらん人気温泉地ランキング発表

発表!

人気温泉地ランキング 2017

11年連続で選ばれる温泉地、葛藤の一年を追う

今年で11回目を迎える「じゃらん人気温泉地ランキング」。全国1万1713人のじゃらんnet会員が投票し、各ランキングが決定した。全国人気温泉地のトップには、またしても箱根が選ばれ、その地位を不動のものとした。「噴火」という、初めての大きな試練を乗り越え復活した、箱根の一年とはどのようなものだったのか。



全国人気温泉地ランキング ベスト50 (n=11,713)

「全国人気温泉地ランキング」では、これまでに行ったことがある温泉地のうち、「もう一度行ってみたい温泉地」について尋ねた。複数回答5つまで

順位	温泉地名	得票数	前年順位
第1位	神奈川県 箱根温泉	2,038	1 →
2	群馬県 草津温泉	1,980	2 →
3	大分県 由布院温泉	1,711	3 →
4	大分県 別府温泉郷	1,646	4 →
5	北海道 登別温泉	1,479	5 →
6	愛媛県 道後温泉	1,324	6 →
7	鹿児島県 指宿温泉	1,136	7 →
8	熊本県 黒川温泉	1,097	8 →
9	兵庫県 有馬温泉	990	9 →
10	岐阜県 下呂温泉	867	11 ↑
11	秋田県 乳頭温泉郷※1	856	10 ↓
12	兵庫県 城崎温泉	827	12 →
13	静岡県 熱海温泉	789	13 →
14	岐阜県 奥飛騨温泉郷	782	14 →
15	石川県 和倉温泉	707	16 ↑
16	山形県 蔵王温泉	703	18 ↑
	鹿児島県 霧島温泉		17 ↑
18	栃木県 鬼怒川温泉	637	15 ↓
19	長野県 白骨温泉	607	23 ↑
20	北海道 洞爺湖温泉	567	19 ↓
21	石川県 加賀温泉郷	552	22 ↑
22	和歌山県 白浜温泉	536	20 ↓
23	島根県 玉造温泉	524	25 ↑
24	北海道 湯の川温泉	507	24 →
25	北海道 阿寒湖温泉	504	26 ↑
26	北海道 定山渓温泉	502	21 ↓
27	群馬県 万座温泉	478	31 ↑
28	群馬県 伊香保温泉	462	27 ↓
29	青森県 八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	459	32 ↑
30	宮城県 秋保温泉	456	28 ↓
31	北海道 層雲峡温泉	451	29 ↓
32	長崎県 雲仙温泉	445	30 ↓
33	佐賀県 嬉野温泉	442	33 →
34	岐阜県 飛騨高山温泉	431	33 ↓
35	長野県 野沢温泉	362	35 →
36	宮城県 鳴子温泉郷	360	39 ↑
37	北海道 ニセコ温泉郷	351	36 ↓
38	静岡県 修善寺温泉	347	38 →
39	栃木県 那須温泉	329	41 ↑
40	神奈川県 湯河原温泉	322	40 →
41	青森県 十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	321	37 ↓
42	山形県 銀山温泉	314	46 ↑
43	岩手県 花巻温泉郷	310	44 ↑
44	栃木県 日光湯元温泉	308	47 ↑
45	北海道 十勝川温泉	290	43 ↓
46	群馬県 四万温泉	283	41 ↓
47	群馬県 みなかみ18湯(旧水上温泉郷・猿ヶ京温泉・法師温泉・宝川温泉)	281	49 ↑
48	富山県 宇奈月温泉	278	45 ↓
49	山梨県 富士河口湖温泉郷	275	48 ↓
50	鳥取県 三朝温泉	265	50 →

※1 秋田・乳頭温泉郷は前年までは「乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉」として尋ねた。

分析 ①

1位は11年連続で「箱根温泉」。5位までの顔ぶれは6年間変わらず

これまでに行ったことがある温泉地のうち「もう一度行ってみたい温泉地」では、「箱根温泉」が、調査開始以来11年連続で不動の1位を獲得。2012年以降、箱根を含むベスト5の顔ぶれは同じだが、9位までの順位も昨年と変わらない結果となり、上位温泉地のブランド力が安定していることがうかがえる。その中で、19位の白骨温泉、27位の万座温泉、42位の銀山温泉がともに4ランクアップし順位を大きく上げた。

全国温泉地1年間の訪問経験 ランキングベスト10 (n=11,713)

「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」では最近1年間(2015年8月頃～2016年8月頃)までに行ったことのある温泉地について尋ねた。

順位	温泉地名	得票数	前年順位
第1位	神奈川県 箱根温泉	1,488	1 →
2	大分県 別府温泉郷	974	2 →
3	群馬県 草津温泉	919	4 ↑
4	静岡県 熱海温泉	880	3 ↓
5	兵庫県 有馬温泉	734	5 →
6	愛媛県 道後温泉	724	7 ↑
7	栃木県 鬼怒川温泉	708	6 ↓
8	大分県 由布院温泉	659	8 →
9	岐阜県 下呂温泉	606	11 ↑
10	栃木県 那須温泉	605	12 ↑

分析 ②

1位、2位は昨年と変わらず。3位「草津温泉」が躍進中

「箱根温泉」の1位に続き、「別府温泉郷」も昨年同様2位をキープ。3位には昨年の「熱海温泉」と入れ替わり「草津温泉」がランクイン。「草津温泉」は一昨年は5位、昨年は4位と、じわじわと順位を上げてきている。8位までの顔ぶれは昨年と変わらないが、10位以下では、14位「白浜温泉」が4ランク、18位「石和温泉」が11ランク順位を上げている。

今回で11回目の調査となる「じゃらん人気温泉地ランキング2017」は、回答者数1万1713人からの調査を元に行われた。主要3部門である「全国人気温泉地ランキング」、「全国あこがれ温泉地1年間の訪問経験ランキング」のいずれも、昨年と首位に変動は見られず、加えて上位までの顔ぶれにも大きな変化が見られない結果となった。これは上位の温泉地の持つ「ブランド力」が安定していることが大きな要因と言えるだろう。それではブランド力を上げるためには何をすべきか。ブランド力を向上させるためにはリピーター、つまりファンを増やす

必要がある、そのためには訪れた人の満足度を上げる努力を欠かすことはできない。「全国温泉地満足度ランキング」1位に輝いた「高湯温泉」は、来訪者数では「もう一度行きたい温泉地(全国人気温泉地ランキング)」にはまだ及ばないが、アンケートの集計対象数は昨年の2倍と大幅にアップ。来訪者が増加して秘湯部門から抜け出ることになった。これは満足度の度合いが高まってブランド力もアップした好例と言えるだろう。

全国あこがれ温泉地ランキング ベスト30 (n=11,713)

「全国あこがれ温泉地ランキング」では、まだ行ったことはないが、「一度は行ってみたい温泉地」について尋ねた。複数回答5つまで

順位	温泉地名	得票数	前年順位
第1位	大分県 由布院温泉	2,726	1 →
2	秋田県 乳頭温泉郷	1,983	2 →
3	群馬県 草津温泉	1,624	3 →
4	鹿児島県 指宿温泉	1,574	4 →
5	大分県 別府温泉郷	1,458	5 →
6	愛媛県 道後温泉	1,403	6 →
7	北海道 登別温泉	1,358	7 →
8	熊本県 黒川温泉	1,266	8 →
9	兵庫県 有馬温泉	1,150	10 ↑
10	岐阜県 下呂温泉	1,065	9 ↓
11	神奈川県 箱根温泉	923	11 →
12	静岡県 熱海温泉	857	12 →
13	山形県 銀山温泉	848	13 →
14	長野県 白骨温泉	749	14 →
15	青森県 八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	737	15 →
16	栃木県 鬼怒川温泉	678	17 ↑
17	石川県 加賀温泉郷	620	18 ↑
18	北海道 洞爺湖温泉	598	16 ↓
19	石川県 和倉温泉	583	20 ↑
20	山形県 蔵王温泉	540	19 ↓
21	群馬県 伊香保温泉	497	21 →
22	鹿児島県 霧島温泉	447	23 ↑
23	富山県 黒部峡谷温泉群	423	22 ↓
24	北海道 ニセコ温泉郷	412	25 ↑
25	富山県 宇奈月温泉	410	24 ↓
26	兵庫県 城崎温泉	385	26 →
27	青森県 十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	365	28 ↑
28	島根県 玉造温泉	348	29 ↑
29	青森県 浅虫温泉	315	33 ↑
30	北海道 阿寒湖温泉	314	31 ↑

分析 ③

「由布院温泉」が11年連続で1位。「浅虫温泉」が4ランクアップ

由布院温泉が11年連続で1位に輝いた。また、上位30位までの温泉地も順位の変動はあるものの、顔ぶれは昨年とほぼ同じとなっている(2位の乳頭温泉郷は昨年とはグルーピングが異なっている。※1参照)。その中で、浅虫温泉が4ランクアップし、昨年の33位から29位へと大きく順位を上げた。

全国温泉地満足度ランキング (n=11,713)

最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した」温泉地について尋ねた。

全国総合満足度ベスト10 (1年間の訪問者50人以上)

順位	温泉地名	満足度 (%)	集計対象数
第1位	福島県 高湯温泉	96.8	125
2	秋田県 乳頭温泉郷	95.8	239
3	長野県 白骨温泉	95.7	188
4	和歌山県 龍神温泉	94.9	99
5	群馬県 万座温泉	94.6	276
6	岐阜県 奥飛騨温泉郷	94.0	420
7	大分県 九重“夢”温泉郷	93.9	99
8	鹿児島県 霧島温泉	93.5	416
9	熊本県 わいた温泉郷	93.1	116
10	熊本県 小田・田の原・満願寺温泉	91.8	98

全国満足度秘湯部門ベスト10 (1年間の訪問者50人以上100人未満)

順位	温泉地名	満足度 (%)	集計対象数
第1位	和歌山県 龍神温泉	94.9	99
2	大分県 九重“夢”温泉郷	93.9	99
3	熊本県 小田・田の原・満願寺温泉	91.8	98
4	秋田県 秋田八幡平温泉郷	89.4	85
5	長野県 穂高温泉郷	89.2	74
6	新潟県 瀬波温泉	89.0	91
7	新潟県 松之山温泉	88.7	53
8	静岡県 寸又峡温泉	86.5	52
9	静岡県 雲見温泉	86.3	51
10	北海道 十勝岳温泉	86.2	58

分析 ④

秘湯部門の常連「高湯温泉」が今年も、総合部門の1位に輝く

毎年、順位や顔ぶれの変動が大きい満足度ランキングだが、今年も「高湯温泉」がトップに浮上。来訪者数増が起因して昨年までの秘湯部門から総合部門に移ったが、満足度96.8%で1位を獲得することになった。また、秘湯部門の1位「龍神温泉」は満足度94.9%で総合でも4位に、2位「九重“夢”温泉郷」は満足度93.9%で総合7位にそれぞれランクインした。

じゃらん人気温泉地 ランキング2017 調査概要と回答者プロフィール

調査概要

調査時期 2016年8月16日(火)～2016年8月31日(水)

調査対象 『じゃらんnet』会員

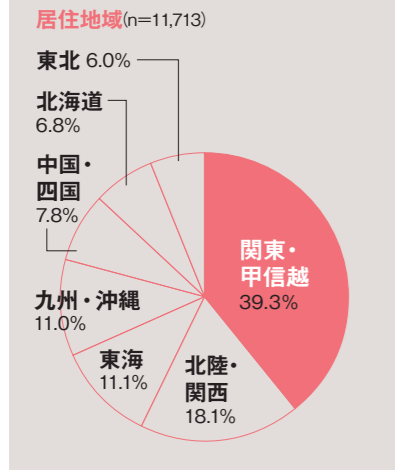
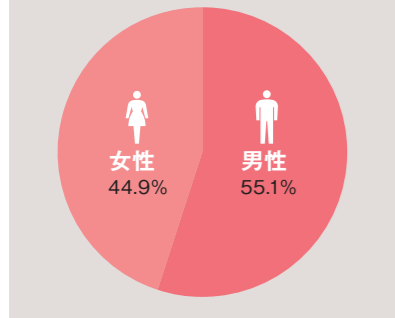
調査方法 インターネット上でのアンケートを実施

回収数 11,713人

有効回答数 11,713人

対象温泉 計331の温泉地を選択肢として設定

回答者プロフィール



今回の11連覇を達成している。温泉大国であると同時に火山大国でもある日本。箱根が直面した問題は、決して箱根だけの問題ではないはずだ。これからの温泉地が備えていかなければならない防災への意識という点を、箱根で起きた1年を追いつながり考えていきたい。

試練を乗り越え、全国人気温泉地11連覇 箱根が、「噴火の危機」から学び、 復活するまで

箱根が有史以来初めて遭遇した、2015年の「小規模噴火」。あれから2年近くが経ち、この人気温泉地にはいつもの賑わいが戻ってきた。それどころか、大涌谷に新しくできた火口が新名所となり、以前よりさらに注目される存在になったと言えるだろう。しかし、噴火騒動の際には今とは異なる注目を集め、周囲とのギャップに苦しんだ箱根。そこから得た気づきにより、どのように復活し、前進を試みたのか。

全国一の人気温泉地箱根に、2015年何が起きたのか

最も標高の高い湯ノ花沢から箱根湯本まで、標高差約830mの間に十七湯が点在する温泉地、箱根。首都圏からのアクセスの良さに加えて、豊富な泉質、雄大な自然、質の高い観光・宿泊施設、グルメ等々、挙げればキリがない多彩な特色を備え、「全国人気温泉地ランキング」では不動の1位に君臨し続けているのがご存じの通り。その箱根が、それまでの温泉観光地というのどかなイメージから一転、「火山」という本来の姿を人々に焼き付けることになったのは2015年のGW最終日。地震、地殻変動、噴気の異常という、火山における3点セットが確認され、

噴火警戒レベルが2に引き上げられたことに始まった。情報が一歩も二歩も歩きし、箱根を取り巻く状況が急変していく。

噴火警戒レベルの引き上げに伴い、大涌谷周辺への立ち入りが規制され、その真上を通るロープウェイは運休となった。箱根町では、これらの情報を記者会見にて発表。だがそれ以外の、各温泉や観光施設等の詳細な状況についての発信はされなかった。事業者たちが、箱根全山として基本的には取材には応じないという姿勢を取ったためである。噴火警戒レベル導入後、初めてレベルが引き上げられたという事態に直面し、慣れない中での対応がどのように受け取られるか想定し難かった面もある。し



箱根温泉地概要
箱根十七湯の泉質は約20種類。箱根全山での温泉湧出量は1日2万5000tで全国第5位。宿泊施設数は、箱根全山で235軒、うち箱根湯本は約50軒、強羅は約40軒。全山についての対応をする（一財）箱根町観光協会、各エリアに観光協会がある

※2 噴火警戒レベルとは
火山の活動状況に合わせて5段階に区分され、火山によって判定基準が異なる。導入当初、レベル1は「平常」の状態とされていたが、2014年の御嶽山の噴火後に「活火山であることに留意」へと変更された。レベル2は「火口周辺規制」、レベル3は「入山規制」、レベル4は「避難準備」、レベル5は「避難」



噴火により新火口が誕生した大涌谷。新火口は徐々に塞がっていくという

止まった一部の宿や、立ち入り禁止となった大涌谷から吹き上げる噴煙の様子など、火山の被害や危険度としてわかりやすいものが人々の印象に残っていくことになったのだ。

箱根で生まれ育った人は、強羅であれ湯本であれ、揺れには慣れていないという。一般にはあまり知られていないが、地震情報にはならない箱根の中でしか感じられないレベルの小さな地震が普段もけっこうな頻度であるからだ。

「レベル2に上がったところまでは、いつものことなのに大げさではないかと、地元では多くが感じていたと思います」。自身も湯本で生まれ育った箱根町観光協会の原平さん（ホテルおかだ）は当時を振り返る。しかし、そうこうしているうちに、潮が引くように観光客が減り始める。客足が戻るまでにはそこから半年を要することになるが、当時は収束の

時がいつ訪れるのかなど、わかるはずもなかった。

震動に慣れていた地元では箱根は火山であるという認識が不足していた

「揺れはいつものこと」と感じていただけに、観光地としてダメージを受け始めると「風評被害ではないか」という声が地元では上がるようになった。しかし地元からのその発信は、炎上を招いてしまうことになる。

「警戒レベルが上がったことも、小規模といえ6月29日には噴火をしたことも、事実だっただけです。地元ではある程度の震動には慣れていたのでいつもの延長に感じていたことも、テレビなどを観た外部の方からすると、静かな箱根が急激に変わって怖い」という印象を受けたのだと思います。しかし我々も慣れ

ているとは言っても、足下にある箱根という火山が実際はどうなっているのか、全然知らなかったことに気がついたのです（原さん）。

状況を把握できていなければ、どこがなぜ安全なのかということを外部の人に伝えることはできない。日本は世界の7%にあたる110の活火山を有する火山大国だ。そのうち50の火山は「常時観測火山」に指定され24時間体制で観測されているが、中でも箱根は最も恵まれた環境にあると言ってもいいだろう。「神奈川県温泉地学研究所」というホームドクターが付いているからである。

「箱根火山では、地震活動、地殻変動、噴気異常の3つが認められたら、噴火警戒レベルが上がるようになっていますが、1つか2つ揃うことは、数年に1度程度はあります。温泉観光地になっていて、小規模な地震などの異常が時々あるけどめったに噴

大涌谷を巡る箱根の動き

2015年	
5月4日	<input type="checkbox"/> 大涌谷自然研究路の閉鎖 <input type="checkbox"/> ハイキングコースの一部区間の閉鎖
5月6日	<input type="checkbox"/> 噴火警戒レベルが2に上がる <input type="checkbox"/> 大涌谷周辺半径約500mが立ち入り制限区域になる <input type="checkbox"/> 大涌谷三叉路通行止め <input type="checkbox"/> ロープウェイ運休
6月29日	<input type="checkbox"/> 夕方から30日昼頃まで有感地震多発。小規模噴火発生
6月30日	<input type="checkbox"/> 噴火警戒レベルが3に上がる <input type="checkbox"/> 早雲山～姥子間で通行止め <input type="checkbox"/> 大涌谷周辺半径およそ1kmの範囲に避難指示が出る <input type="checkbox"/> 避難指示区域に掛かる周辺の2つの県道は約4kmにわたり通行止め <input type="checkbox"/> 地震は収まる
8月24日	<input type="checkbox"/> 避難指示一部解除
9月11日	<input type="checkbox"/> 噴火警戒レベルが2に下がる
9月14日	<input type="checkbox"/> 警戒区域の縮小 <input type="checkbox"/> 早雲山～姥子間の通行止め解除
10月30日	<input type="checkbox"/> ロープウェイ姥子～桃源台運行再開
11月20日	<input type="checkbox"/> 噴火警戒レベルが1に下がる
2016年	
4月23日	<input type="checkbox"/> ロープウェイ桃源台～大涌谷間運行再開（駅舎の外には出られず）
4月28日	<input type="checkbox"/> くろたまご再販開始
7月26日	<input type="checkbox"/> 大涌谷園地一部規制解除 <input type="checkbox"/> ロープウェイ全線再開

箱根葛藤の半年間（2015年6月～）の観光客入れ込み数の変化は？
2015年は宿泊客、日帰り客ともに、対前年約80%となり、3,814,000人減少する結果となった。家族連れの減少が目立った反面、インバウンドでは伸びを見せた。宿泊客の対前年比では、あじさいで賑わう6月が約60%、7～8月の夏休みが70%前後、紅葉が見頃となる11月が80%と徐々に回復を見せたが、完全に復調したのは2016年1月に入ってからとなった
(観光客入れ込み数データは箱根町作成/大涌谷周辺の火山活動による影響調査他より)



約3000年前に起こった箱根火山の最高峰 神山の山体崩壊前(想像図)と現在の箱根の図。箱根観光の要所がこのプロセスで作られたことが想起できるという(図提供/神奈川県温泉地学研究所)

火山ごとに設置されている火山防災協議会では、その火山について最も可能性が高いと想定される様式と規模を選び、自治体、有識者らと交えて対策を立て「噴火シナリオ」を作っている。

レベル2で想定されていた噴火の規模に収まっていてある意味シナリオ通りと言えます。防災を考える上で一番大切なことは、まずは火山であるということを確認することです。そして火山防災協議会に出たり、地元

の火山の噴火シナリオを見るなどし

て、わからないことを事前に学んでおく必要があります(萬年さん)。

小規模噴火を受け客足が減少するなど、先の見えない葛藤の中において、箱根では火山と向き合い共存していくために学び、体制を整えるべく動き始めることになった。

「今回、箱根火山は噴火しましたが

レベル2で想定されていた噴火の規模に収まっていてある意味シナリオ通りと言えます。防災を考える上で一番大切なことは、まずは火山であるということを確認することです。そして火山防災協議会に出たり、地元

の火山の噴火シナリオを見るなどし

て、わからないことを事前に学んでおく必要があります(萬年さん)。

小規模噴火を受け客足が減少するなど、先の見えない葛藤の中において、箱根では火山と向き合い共存していくために学び、体制を整えるべく動き始めることになった。

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」



第1回 火山^①観光サミット 2016 in 箱根 2016年3月2日(水)~4日(金)の3日間開催

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」



「クライシスコミュニケーション^{※4}に関するレクチャー」および「メディア・トレーニング」 2016年3月25日(金)実施

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

第1回 火山^①観光サミット 2016 in 箱根 2016年3月2日(水)~4日(金)の3日間開催

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「クライシスコミュニケーション^{※4}に関するレクチャー」および「メディア・トレーニング」 2016年3月25日(金)実施

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

「今回、箱根火山は噴火しましたが」

※3 神奈川県温泉地学研究所とは 1961年に創設。神奈川県地質に関する研究を中心に地震火山災害の軽減や地下環境の保全に役立つ様々な研究を進めている。箱根の地震・地殻変動は5人体制で監視。最近の研究で、箱根火山の地下にマグマ溜まりがあること、またそこに時々マグマが供給されていることなどが明らかになりつつあるという。[行政や住民も温泉や火山について質問しやすい、いざというとき防災にも威力を発揮するので、火山の研究所を地元で作るのはお勧めです](萬年さん)。